神護寺

創建1200年記念 特別展

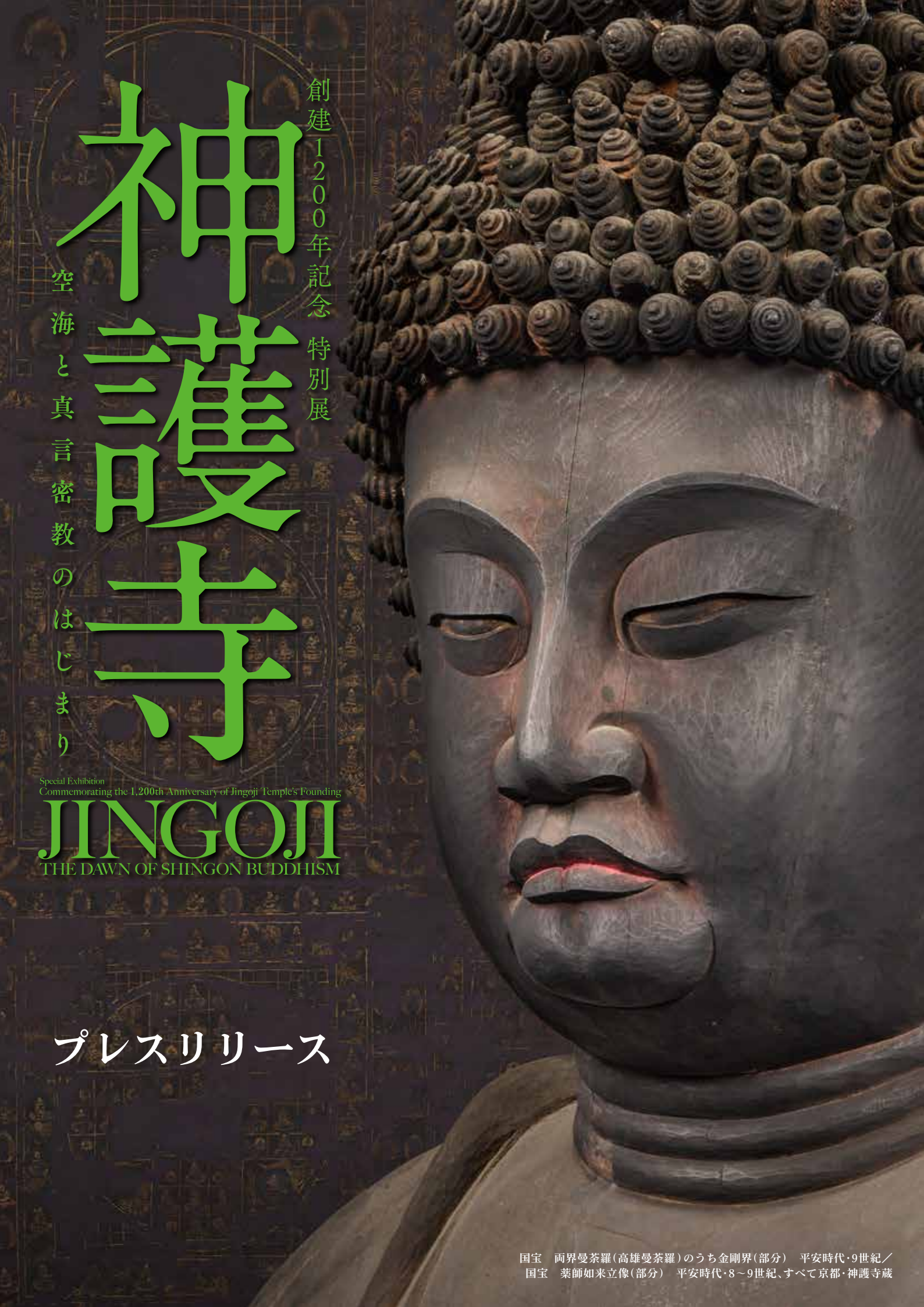
空海と真言密教のはじまり

Special Exhibition
Commemorating the 1,200th Anniversary of Jingoji Temple's Founding

JINGOJI

THE DAWN OF SHINGON BUDDHISM

プレスリリース



国宝　両界曼荼羅（高雄曼荼羅）のうち金剛界（部分）　平安時代・9世紀／
国宝　薬師如来立像（部分）　平安時代・8～9世紀、すべて京都・神護寺蔵

開催趣旨

京都市の北西部、高雄に所在する神護寺は、紅葉の名所として古くから知られてきました。天長元年（824）、高雄山寺と神願寺というふたつの寺院がひとつになり、神護国祚真言寺（神護寺）が誕生します。高雄山寺は平安遷都を提案した和気清麻呂の氏寺で、唐で密教を学んだ空海が帰国後、活動の拠点とした寺院です。国宝「灌頂暦名」や国宝「両界曼荼羅（高雄曼荼羅）」は、空海に直接関わる作品としてあげられます。また、神護寺の前身寺院にまつられていた国宝「薬師如来立像」は、平安初期彫刻の最高傑作で、寺外での公開は神護寺史上初めてのことです。本展は、空海と真言密教のはじまりの地、神護寺に伝わる寺宝の数々をご紹介するまたとない機会です。1200年を超える歴史の荒波を乗り越え伝わった、貴重な文化財をご覧ください。

みどころ

空海の寺、神護寺。真言密教の源流1200年の至宝集結

唐で体系的な密教を学んだ空海は、その成果をもとに真言密教を打ち立てました。
密教では教義の世界観を示す曼荼羅や儀式で使う法具など、数多くの美術工芸品が生み出されました。
会場では、空海の生きた時代に制作された、彫刻・絵画・工芸の傑作をはじめ、
国宝17件、重要文化財44件を含む密教美術の名品など約100件を展示します。

寺外初公開、本尊の国宝「薬師如来立像」

神護寺の前身寺院にまつられていたのが本尊「薬師如来立像」です。
量感あふれる造形、威厳あふれる表情は、独特の迫力を生み出し、平安初期彫刻の最高傑作といえます。
本展は寺外で本尊の荘厳さにふれていただく、神護寺史上初の機会です。

約230年ぶりの修理、国宝「両界曼荼羅（高雄曼荼羅）」

金剛界と胎蔵界、密教のふたつの世界観を図示したのが両界曼荼羅です。
高雄山神護寺に伝わったため、「高雄曼荼羅」と呼ばれる本作品は、4メートル四方の大きさを誇る、
空海在世時に制作された現存最古の両界曼荼羅です。
江戸時代以来、およそ230年ぶりに修理された姿をご覧いただきます。

現存最古の「五大虚空蔵菩薩坐像」が勢揃い

空海の後を継いだ真済の代に安置された国宝「五大虚空蔵菩薩坐像」は、
日本でつくられた作例のうち、五体が揃う現存最古のものです。
仁明天皇御願とされ、鎮護国家が願われました。
品の良い顔立ちと均整の取れた造形は、当時最高の技術を持った工人によって制作されました。
寺外で五体揃って公開されるのは初めてのことです。

神護寺とは

神護寺略年表

天応元年(781)	桓武天皇、和気清麻呂の神願寺建立の願いを許す。 高雄山寺はこれ以前に清麻呂によって建立。
延暦21年(802)	和気弘世、最澄を高雄山寺に招き、法華会を開く。
延暦23年(804)	空海、最澄、入唐。
延暦24年(805)	最澄帰国。高雄山寺で日本初の灌頂を行う。
大同元年(806)	空海帰国。
大同4年(809)	空海、高雄山寺に入る。
弘仁3年(812)	空海、高雄山寺で日本初の両部(金剛界・胎蔵界)灌頂を行う。
天長元年(824)	和気真綱の要請を受け、官寺である神願寺を高雄山寺と併合、 寺名を神護国祚真言寺(略して神護寺)と改めた。 天長年間に淳和天皇の御願により「両界曼荼羅(高雄曼荼羅)」が制作される。
承和２年(835)	高野山で空海入定。
承和7年(840)	真済、神護寺別当になる。その間に宝塔を建立、「五大虚空蔵菩薩坐像」を安置。
仁安3年(1168)	文覚、神護寺参詣。荒廃した神護寺を再興することを決意。 その後、後白河法皇、源頼朝に支援を求める。
寿永3年(1184)	源頼朝より丹波国宇都庄が、後白河法皇より備中国足守庄ほかが寄進される。
元暦元年(1184)	後白河法皇、高野山に渡っていた「両界曼荼羅(高雄曼荼羅)」を返還。
元暦2年(1185)	後白河法皇、鳥羽天皇御願の「紺紙金字一切経(神護寺経)」を奉納。
嘉禄2年(1226)	復興の落慶供養が行われる。
嘉元4年(1306)	後宇多法皇、「僧形八幡神像」を勝光明院宝蔵より返還。
徳治3年(1308)	後宇多法皇、「灌頂暦名」を勝光明院宝蔵より返還。
延慶2年(1309)	後宇多法皇の御願によりなされた「両界曼荼羅(高雄曼荼羅)」の修理完了。
天文年間(1532～1555)	兵火により伽藍焼失。
元和9年(1623)	板倉勝重が奉行となり、金堂(現毘沙門堂)、五大堂、鐘楼などを再建。
寛政5年(1793)	光格天皇の御願により「両界曼荼羅(高雄曼荼羅)」を修理。模本も制作される。
昭和10年(1935)	山口玄洞の寄進により、金堂、多宝塔、清麻呂霊廟などが再建される。

神護寺とは

神護寺をめぐる人々

神護寺の草創期に関わる人々

空海（774～835）

平安時代初期に活躍した僧。延暦23年（804）、最新の密教を求め入唐。青龍寺の恵果から金剛界・胎蔵界両部の体系的な密教を授けられ帰国した。両部を統合して打ち立てたのが真言密教である。帰国後の空海が拠点としたのが神護寺の前身寺院、高雄山寺であった。弘仁3年（812）、空海は初の両部灌頂を同寺で行い、最澄が弟子たちとともに受けたことが知られる。高雄山寺、神護寺は、空海と真言密教のはじまりの聖地であった。



重要文化財
弘法大師像
鎌倉時代・14世紀
京都・神護寺蔵

和気清麻呂（733～799）

奈良時代末期から平安時代初期に活躍した官僚。称徳天皇に寵愛された僧・道鏡が天皇位を得ようとしたことを阻止した件や、平安遷都に尽力したことで知られる。私寺である高雄山寺を建立した。若き最澄を支援し、子の真綱は帰国後の空海に高雄山寺を提供した。高雄山寺、神護寺はまさに、天台宗と真言宗という平安仏教を育む重要な場であった。

最澄（767～822）

平安時代初期に活躍した僧。比叡山に延暦寺を創建したのち、天台大師智顗が大成した天台の教えを求め、空海と同じく804年に入唐し翌年帰国。高雄山寺にて日本で初めてとなる灌頂を行った。入唐前の延暦21年（802）には和気氏の求めに応じ、同寺で法華経の講演も行っている。空海の帰国後は、高雄山寺に滞在した空海と手紙のやり取りが行われ、812年、空海より両部の灌頂を受けた。

神護寺の復興に関わる人々

文覚（1139～1205）

平安時代末期から鎌倉時代初期に活躍した僧。後白河法皇、源頼朝の支援を受け、火災などで荒廃してしまった神護寺の復興に尽力した。復興の経緯は、「文覚四十五箇条起請文」のなかで詳細に語られる。

後白河天皇（1127～1192）

平安時代末期に活躍した第77代天皇。文覚の求めに応じ、神護寺復興を支援した。紀伊国桛田庄や備中国足守庄をはじめとした荘園を寄進し、他寺へ流出していた「両界曼荼羅（高雄曼荼羅）」、「梵鐘」、「五大虚空蔵菩薩坐像」という神護寺の核となる寺宝の返還に尽力した。

源頼朝（1147～1199）

平安時代末期から鎌倉時代初期に活躍した武将。鎌倉幕府を開いた。文覚の求めに応じ、神護寺復興を支援。寿永3年（1184）、復興の経済的基盤となった丹波国宇都庄を寄進した。

後宇多天皇（1267～1324）

鎌倉時代後半に活躍した第91代天皇。真言密教に傾倒し、出家後はその興隆に尽力した。神護寺とゆかりが深く、勝光明院にあった「僧形八幡神像」と「灌頂暦名」を神護寺に返還、延慶2年（1309）に完了した「両界曼荼羅（高雄曼荼羅）」の修理を行った。

江戸時代に「高雄曼荼羅」を修理

光格天皇（1771～1840）

江戸時代後半に活躍した第119代天皇。寛政5年（1793）に「両界曼荼羅（高雄曼荼羅）」の修理を行った。今回なされた修理は、この時以来、およそ230年ぶりの大事業である。なお、神護寺には、光格天皇の発願によって制作された「高雄曼荼羅」の原寸大の模本が伝わる。

第1章　神護寺と高雄曼荼羅

「両界曼荼羅（高雄曼荼羅）」は、密教の世界観を描いた現存する最古の両界曼荼羅です。空海が中国から請来した曼荼羅が破損したため、それを手本に天長年間（824～834）に制作されました。紫の綾に金泥と銀泥を用いて数多くの仏が描かれます。本章第一節では、「高雄曼荼羅」が制作された空海在世時と草創期の神護寺、第二節では文覚の努力によって神護寺が復興し、仁和寺や蓮華王院、高野山を転々としていた「高雄曼荼羅」が返納される院政期の神護寺に関連する作品をご紹介します。「高雄曼荼羅」に描かれた広大な密教の世界観をお楽しみください。

前期展示：7月17日（水）～8月12日（月・休）　後期展示：8月14日（水）～9月8日（日）



金剛界



胎蔵界



胎蔵界
（不動明王部分）

国宝　両界曼荼羅（高雄曼荼羅）

平安時代・9世紀　京都・神護寺蔵
【金剛界】後期展示【胎蔵界】前期展示

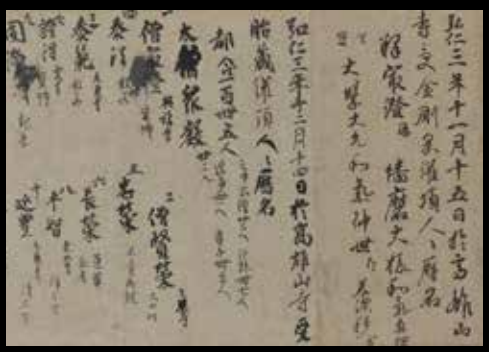
密教の世界観を図示したもので、空海が制作に関わった現存最古の両界曼荼羅。花や鳳凰の文様を織り出した絹地に、金泥と銀泥を用いて輪郭線のみで諸仏を描く。空海が請来した曼荼羅を手本としており、唐代絵画の雰囲気を今に伝える点でも貴重である。



国宝　伝源頼朝像

鎌倉時代・13世紀　京都・神護寺蔵　前期展示

ほぼ等身大に描かれた、束帯姿の武将像。顔貌は、眉やまつ毛、髭に至るまで一本一本を丁寧に描き出し、伸びやかで繊細な輪郭線が用いられる。日本の肖像画史上の傑作として、特筆すべき作品である。

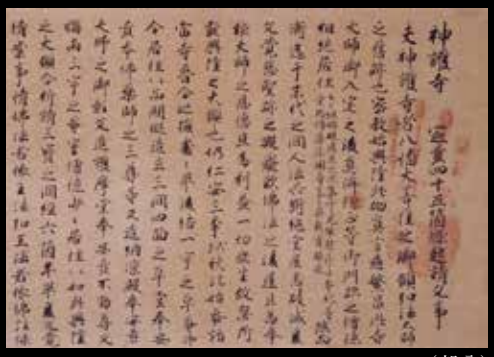


（部分）

国宝　灌頂暦名

空海筆　平安時代・弘仁3年（812）
京都・神護寺蔵　7月17日（水）～8月25日（日）

灌頂とは密教の儀礼のひとつ。唐から帰国した空海が、弘仁3年（812）に金剛界・胎蔵界両部の灌頂を高雄山で行った際の受法者名簿。11月15日に金剛界、12月14日に胎蔵界の灌頂が行われ、ともに最澄の名前が筆頭に記される。空海自筆の私的な記録である点も重要で、空海の日常の書風を見ることができる。



（部分）

国宝　文覚四十五箇条起請文

中山忠親筆　平安時代・元暦2年（1185）
京都・神護寺蔵　後期展示

神護寺復興の目途を立てた文覚が、寺僧の守るべき規律や寺院経営など、その考えを四十五か条にまとめ神仏に誓ったもの。前書きには後白河法皇に復興を直訴して伊豆に流されたことや、その後、源頼朝らの支援を得たことなど、復興に至る経緯が記され注目される。

第2章　神護寺経と釈迦如来像 ― 平安貴族の祈りと美意識

「神護寺経」は神護寺に伝来した「紺紙金字一切経」の通称です。鳥羽天皇の発願とされ、2000巻余りが現存します。経典を包む経秩には、久安5年（1149）の墨書がある副竹を持つものがあり、平安時代の染織資料としても大変重要です。一方、「赤釈迦」の名で知られる「釈迦如来像」は、細く切った金箔による截金文様が美しい、繊細優美な平安仏画を代表する作例です。平安時代に行われた「高雄法華会」の本尊に用いられたと考えられます。「神護寺経」と「赤釈迦」が織りなす平安貴族の美の世界をご覧ください。



（部分）

重要文化財　大般若経　巻第一（紺紙金字一切経のうち）

平安時代・12世紀　京都・神護寺蔵　通期展示

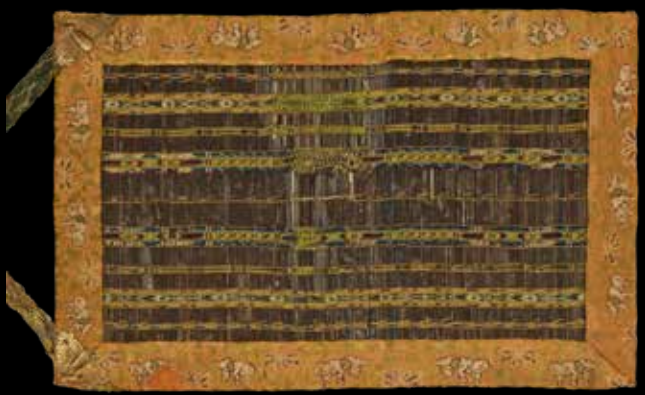
紺紙に金泥で書写した一切経（様々な仏典を集成したもの）の一巻。本来は5000巻を超える大部なものだが、現在は2317巻が現存し、「神護寺経」と通称される。表紙には金銀泥で宝相華文様が、見返しには釈迦如来の説法図が同じく金銀泥で描かれ、平安時代の絵画作例としても貴重。



国宝　釈迦如来像

平安時代・12世紀　京都・神護寺蔵　後期展示

平安時代に描かれた独尊の釈迦如来像。赤い衣を着ていることから、「赤釈迦」と称される。着衣に施された文様は、彩色の団花文に截金文様が組合され、繊細優美な院政期仏画の傑作のひとつ。



重要文化財　紺紙金字一切経　経帙

平安時代・12世紀　京都・神護寺蔵　通期展示

一切経を10巻ずつまとめて保管するために制作された。経帙は439帙あったとされる。そのすべての経帙において、美しい色糸で組まれた墨染の竹簀の隙間から雲母がきらめき、中国・宋時代の錦で縁をかがり、中国の文綾で裏を当てている。つややかな組紐は、金銅に蝶の細工を施した金具で留められている。後白河法皇が寄進したと伝えられ、技と贅を極めた荘厳の形に信仰への思いが感じられる。

第3章　神護寺の隆盛

文覚による復興後、弟子の上覚や明恵によって伽藍整備が進められ、神護寺はさらに発展していきます。本章では中世の神護寺の隆盛がうかがえる寺宝の数々をご紹介します。後白河法皇や源頼朝に寄進された荘園は復興の経済的な基盤となりました。その荘園を描いた絵図は、「神護寺絵図」や「高山寺絵図」に代表される寺領絵図とともに、中世に描かれた絵図の作例として重要です。また、「山水屏風」「十二天屏風」「金銅梵釈四天王五鈷鈴」をはじめとした密教空間を彩る美術工芸品の数々も展示します。



国宝 山水屏風

鎌倉時代・13世紀　京都・神護寺蔵
後期展示

灌頂の儀礼の場にしつらえられた屏風。描かれているのは穏やかな自然景と貴族およびその邸宅で、一扇毎に区切られた古い形式を持ち、現存する最古のやまと絵屏風としても特筆される。



金銅梵釈四天王五鈷鈴

朝鮮半島・高麗・10～12世紀
京都・神護寺蔵
通期展示

密教の祈祷に用いられる法具で、振り鳴らして仏・菩薩を覚醒させ、祈祷の場に迎えるのに用いられる。鈴身に仏像を表す形式は、中国あるいは朝鮮半島に見られるもので、鋭く堂々とした鈷（先端の鋭く尖った部位）の表現にもその特徴が表れている。密教寺院にふさわしい遺例で、空海請来と伝えられるが、実際には後代もたらされたものであろう。



重要文化財 神護寺絵図

鎌倉時代・寛喜2年（1230）　京都・神護寺蔵　前期展示

寛喜2年（1230）の太政官符によって定められた神護寺の寺域を図示したもの。清滝川を挟んで各伽藍が描かれる。建物にはその名称も明記され、文覚の尽力によって整備された当時の神護寺の様子を俯瞰的に捉えることができる。

第4章　古典としての神護寺宝物

幕末に活躍した復古やまと絵の絵師、冷泉為恭は、絵画技術や有職故実を学ぶために数々の古画を模写しました。神護寺宝物では「伝源頼朝像」「伝平重盛像」「伝藤原光能像」、さらには「山水屏風」を写しています。一方、「両界曼荼羅（高雄曼荼羅）」は、空海ゆかりの作例として、平安時代後半から曼荼羅の規範となり、仏の姿が写されました。近代にはその姿が版木に彫られ、明治2年（1869）に御室版として開版、のちの仏教美術研究の礎となりました。神護寺の寺宝がまさに古典として、江戸時代後半から明治時代に再び注目された様子をご紹介します。



山水屏風
冷泉為恭筆　江戸時代・19世紀
京都・神護寺蔵　後期展示

鎌倉時代に描かれた国宝「山水屏風」の模本。細やかな人物描写や透明感のある彩色まで原本を丁寧に写している。やまと絵の名品として、当時も評価が高かったことがうかがえる。なお、原本である国宝「山水屏風」と画面の配置が異なるのは、近年になされた原本修理の際、制作当初の配置に復元したためである。



伝源頼朝像
冷泉為恭筆　江戸時代・19世紀
東京国立博物館蔵　前期展示

冷泉為恭による国宝「伝源頼朝像」の模本。顔貌や衣の文様も緻密に写しており、為恭の技術の高さがうかがえる。為恭は若い頃、画技を身に着けるために熱心に古画の模写を行った。高山寺に伝わる「将軍塚絵巻」の模本も現存し、神護寺周辺の古画の名品を写していたことが知られる。

第5章　神護寺の彫刻

空海は、現在地にあった高雄山寺と他所にあった神願寺を合併して、密教寺院である神護寺としました。「薬師如来立像」は、神護寺以前の造像で密教像ではありませんが、空海は本尊として迎えました。「日光・月光菩薩立像」も神護寺となる前につくられたと考えられますが、もともと薬師に従う像であったかは不明です。神護寺で現存する密教像のうち最も古いのは「五大虚空蔵菩薩坐像」で、空海の弟子真済が発願した立体曼荼羅です。仏師運慶の孫康円がつくった「愛染明王坐像」は鎌倉時代の名品です。変化にとんだ姿の「十二神将立像」や「四天王像」にも注目してください。





（部分）



（部分）

国宝

薬師如来立像

平安時代・8〜9世紀　京都・神護寺蔵　通期展示

大変に厳しい眼差しである。引き締まった口元もあって近寄りがたい威厳がある。空海はその姿に尊崇の念をいだき神護寺の本尊としたに違いない。両腕の半ばから先を別の木でつくるほかはひとつの材から彫り出すが、深い奥行きや盛り上がった大腿部、左袖の重厚な衣文表現は、重量感にあふれる。日本彫刻史上の最高傑作である。

第5章　神護寺の彫刻


金剛虚空蔵


業用虚空蔵


法界虚空蔵


蓮華虚空蔵


宝光虚空蔵

国宝 五大虚空蔵菩薩坐像　平安時代・9世紀　京都・神護寺蔵　通期展示

空海の弟子である真済が多宝塔の安置仏としてつくった像で、承和12年（845）完成とする記録がある。大部分をひとつの材から彫り出し、その上に木屎漆という漆と木の粉を合わせた素材で塑形する。その技法や目鼻立ちの整ったふっくらした顔立ちから、当時最もすぐれた仏像をつくった官営の工房の手によることがわかる。


子


丑


寅


卯


辰


巳


午


未


申


酉


戌


亥

十二神将立像　［酉神・亥神］　室町時代・15～16世紀　［子神～申神・戌神］吉野右京・大橋作衛門等作　江戸時代・17世紀　京都・神護寺蔵

頭に十二支の動物をのせ、薬師如来をサポートする十二神将。江戸時代初期に活躍した京仏師・吉野右京等が制作した。
各像の個性豊かなポーズをまとまりよく表わす点に、確かな技術と優れた造形感覚がうかがえる。

開催概要

展覧会名	創建1200年記念　特別展「神護寺 ― 空海と真言密教のはじまり」
英語展覧会名	Special Exhibition Commemorating the 1,200th Anniversary of Jingoji Temple's Founding Jingoji: The Dawn of Shingon Buddhism
会期	2024年7月17日（水）～9月8日（日）
休館日	月曜日（ただし8月12日は開館）、8月13日（火）（総合文化展は8月13日開館）
開館時間	午前9時30分～午後5時 ※金曜・土曜日は午後7時まで（ただし8月30日・31日は除く）※入館は閉館の30分前まで
会場	東京国立博物館　平成館
主催	東京国立博物館、高雄山神護寺、読売新聞社、NHK、NHK プロモーション
特別協力	文化庁
お問合せ	050-5541-8600（ハローダイヤル）
展覧会公式サイト	https://tsumugu.yomiuri.co.jp/jingoji/

150th 読賣新聞

TSUMUGU 紡ぐプロジェクト

本展の収益の一部は、「紡ぐプロジェクト」における文化財の修理事業に充てられます。

●入館方法や観覧料等の詳細は、確定次第、展覧会公式サイト等でお知らせします。
●展示作品、会期、展示期間、開館時間、休館日等については、今後の諸事情により変更する場合があります。
最新情報は展覧会公式サイト等でご確認ください。



TNM 東京国立博物館 平成館（上野公園）
TOKYO NATIONAL MUSEUM (UENO PARK)

〒110-8712　東京都台東区上野公園13-9
東京国立博物館ウェブサイト　https://www.tnm.jp/

●JR上野駅公園口・鶯谷駅南口より徒歩10分
●東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅、東京メトロ千代田線根津駅、京成電鉄京成上野駅より徒歩15分

報道関係お問合せ

創建1200年記念 特別展「神護寺」広報事務局（共同PR内）
〒104-0045　東京都中央区築地1-13-1 銀座松竹スクエア10階
TEL：03-6264-2382　FAX：0120-653-545　E-mail：jingoji2024-pr@kyodo-pr.co.jp